

2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	助教	中野 匡隆
最終学歴	学 位	専門分野
中京大学大学院体育学研究科博士前期課程修了	修士 (体育学)	スポーツ生理学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

スポーツ生理学やトレーニングの基礎知識の学修について「真面目」に自ら学ぶことを創出し、「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を達成することを目標とする。

(計画)

自ら主体的となつての学修を評価する指標を「事前事後学習」とし、その機会を増やすため、WEBを利用したり、授業の前後に復習の小テストなど多く用いたり、その点数を振り返り、一定以上の点数が取れなかった場合の再チャレンジの用意をしたりすることは継続しつつ、自ら考えたレポート作成ができるようにループリクなどを活用する。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

解剖生理学Ⅰ、運動生理学、総合野外活動実習Ⅱ、東邦プロジェクトB、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

(後期)

トレーニング実習、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

復習のための小テストや課題提出にグーグルクラスルームやグーグルフォームを活用し、頻繁に実施することで事前事後学習を誘導しようと学生たちの意識誘導を試みた。その結果、授業評価アンケートの結果にて、前年度に比較し、「1～2 時間」が数ポイント向上の傾向であった。また演習に関しては、複数名の教員で協力して対応するコース制を今年から試行している。進度、意欲の異なる学生への対応が個別になりがちで全体として、思うような授業運営ができなかった点については、ある程度の改善がみられたと考える。

○作成した教科書・教材

グーグルフォームを活用した小テスト

○自己評価

担当講義科目については、良い傾向が認められた。このまま次年度もさらに、WEBを利用する方向性で進めたい。また演習のコース制についても、良い傾向が認められたので、このままの方針で、その都度の修正と改善をしながら、よりよい教育効果の発揮を目指していきたい。

II 研究活動

○研究課題

①地域高齢者の体力測定

②学生の体力測定

③熱中症に関する意識調査

○目標・計画

(目標)

論文を2本投稿する

(計画)

- ①高齢者の体力測定と活動量の測定をできるだけ多く実施する。
- ②まず、基礎的な体力や栄養に関する調査を実施する。
- ③アンケート調査を実施し、熱中症に関する地域の認識を確認する。

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・尚爾華・澤田 節子・谷村祐子・肥田 幸子・中野匡隆・木野村嘉則、高齢者の健康維持と運動『長寿社会を生きる ―地域の健康づくりをめざして―』地域研究創造叢書 唯学書房 2017年3月

(学術論文)

- ・中野 匡隆『運動によって誘発される遅発性筋痛に対する人工炭酸泉浴の影響』東邦学誌 47(2), 101-107, 2018.12
- ・葛原憲治、長谷川望、中野匡隆『スキー・スノーボードの傷害について Skiing and snowboarding injuries』東邦学誌 45(2), 15~24, 2016.12
- ・T. Kato, T. Matsumoto, A. Tsukanaka, M. Nakano, R. Ito, M. Amano, M. Cole, and SM. Yamashiro, Effect of hypercapnic severity on plasma ammonia accumulation and respiratory exchange ratio during incremental exercise, International Journal of Sports and Exercise Medicine 2015
- ・澤田節子・肥田幸子・尚爾華・中野匡隆『地域在住高齢者の健康維持活動支援に関する調査』東邦学誌 44(2), 117-139, 2015.12
- ・山下直之、伊藤僚、中野匡隆、松本孝朗『高校生アマチュアボクシング選手のウェイトコントロールの状況分析』スポーツ健康科学研究 36: 11~19, 2014
- ・水野貴正、中野匡隆、松本孝朗、梅村義久『人工炭酸泉への入浴時間の違いが関節可動域に与える影響』日本生気象学会雑誌 49(4) : pp. 149-155、 2012
- ・中野匡隆『人工炭酸泉浴へ期待される効果-入浴施設利用者へのアンケート調査より-』東邦学誌 41(1), 163-168, 2012

(学会発表)

(特許)

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

日本体力医学会、日本体育学会、日本生気象学会、日本運動疫学会、運動と体温の研究会

○自己評価

目標を達成することができなかった。もう一度、最初から計画を見直し、しっかりと実行に移し

たい。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

できることをできるだけ取り組む

(計画)

今年度から新たにキャリア支援委員会に配属されたため、詳細な計画は立てられないが、できることをできるだけ取り組む。

○学内委員等

キャリア支援委員会委員

○自己評価

与えられた役割は遂行できた、次年度からは、委員会の役に立てるように努力したい。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

地域高齢者のいきがづくりへの寄与

(計画)

2014年から名東区内および近隣にて、延べ複数回のペースで教室などを開催している。2018年度は、学生を巻き込めず、拡大化は失敗したので、今年は学生を巻き込む計画は継続しつつ、学生がいなくとも継続できるようにする。

○学会活動等

○地域連携・社会貢献等

○自己評価

例年通りの結果となってしまった。もう一度、最初から計画を見直し、しっかりと実行に移したい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

地域の高齢者への地域貢献としては一定の成果は上げることができているが、研究活動面では、全く思うように進めることができていないので、今後は自らの仕事の効率化も考えていきたい。

VI 総括

年々と、教育活動および研究活動、その他の業務をバランスよく取り組むことができなくなってきている。今年はずっとも効率の悪い取り組みとなってしまった。しっかりと研究できるようにもう一度計画から見直して実施できるようにしたい。そのうえで、教育活動が効率よく運営できるようにしたい。